

2024年7月4日発行

アグリ筑西 2024年夏号

蒸し暑い日が多いので熱中症
には十分注意しましょう！

県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)
発行

電話番号：0296(24)9206

FAX：0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス！↑

シリーズ「農業経営者に訊く」Vol.6



下条誠さん(筑西市 キュウリ+トマト経営)

下条さんは、2011年にUターンで就農後、ハウス栽培でキュウリ・トマトの輪作体系をスタートさせました。現在、JA北つくばきゅうり選果場部会青年部の副部長として活躍されており、肥料や病害虫対策等の試験栽培を積極的に行っている他、栽培技術及び経営能力向上のための研修会参加や消費宣伝活動を行ってられます。

●経営の概況について教えてください。

促成キュウリ30aと抑制トマト45aを輪作体系で作付けしています。キュウリの品種は「ニーナZ」を栽培しており、自身の栽培管理に合わせた品種選定をしています。毎年気候が変わるため、変化に応じた栽培管理を心掛けています。また、部会の現地検討会や勉強会に参加しながら、収量の向上に努めています。キュウリ、トマトともに近年単価がよく、安定した経営ができています。

●経営における課題は何ですか。

さらなる経営発展のために、新品目の導入や面積拡大を考えていますが、両親の高齢化とともに年々労働力に余裕がなくなってきたことで、新たな労働力の確保が第一の課題となっています。話は逸れますが、キュウリ青年部の活動の一環でJA北つくばの「産地研修会」に助言者として参加し、学生と就農について意見交換した際、学生は法人化している農家を優先的に選んでいる、というのを感じました。これまでも法人化については関心がありましたが、より強く法人化に向けて取り組もうと思ったきっかけの一つとなりました。また、周りの農業経営者や専門家から刺激↗

を受け、経営者には柔軟な思考が重要であると感じ、普段から広い視野で物事を考えられるよう意識しています。

●今後の取り組みについて教えてください。

上記の課題を解決するために、茨城県の参入等支援センター専門家派遣事業を活用し、営農計画を作成、法人化・雇用についての知識を習得しました。今後は、法人化に向けた経営改善と、さらなる増収に向けた栽培技術の向上に取り組んでいきたいと思っています。



キュウリの栽培状況

貴重なご意見を訊かせいただきありがとうございました。これからも農業経営者として地域を牽引されることをご期待いたします。

技術紹介 水稲管理のポイント

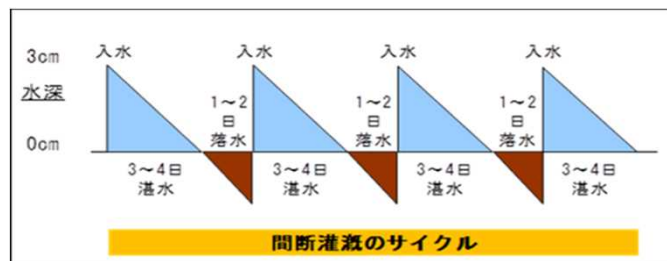
●高温障害（白未熟粒）対策

高温耐性品種への転換

「にじのきらめき」「ふくまる」等

栽培管理

- ・移植時期を5月5日～5月20日に遅らせる
- ・出穂前の生育に応じた追肥
- ・出穂後30日頃までの間断かんがいを継続



- ・出穂後の最低気温が25℃を上回る、いわゆる熱帯夜が続く場合、用水が十分に確保できるところでは、夜間のかけ流し
- ・土壌改良資材や堆肥の施用、作土深15cmの確保

●斑点米カメムシ類の対策

クモヘリカメムシ成虫
(写真：病害虫防除部)

畦畔の除草作業

出穂期の2週間前までの畦畔除草の徹底
(出穂直前～収穫2週間前は除草を控える)

不稔発生の予防

出穂期～穂揃期の成虫を対象とした薬剤防除

斑点米発生の予防

乳熟期（出穂後10～15日頃）の幼虫密度を低下させるための薬剤防除

※周辺の水田と出穂時期の異なる早生や晩生品種では被害が集中しやすいので注意

●収穫・乾燥・調製

適期収穫

帯緑粉率10%になってから5日間
目安は出穂後35～40日。

帯緑粉 (%)	成熟期前日数
55	11
30	8
25	6
20	4
15	2
12	1
10	成熟期(収穫適期)

帯緑粉と黄化粉の判別



コシヒカリの帯緑粉率と成熟期前日数

乾燥・調製

高温・急激乾燥を避ける（穀温は40℃以下、毎時乾減率は0.8%以下）

粃摺り・調製

- ・穀温を外気温程度まで下げてから粃摺りを行う
- ・色彩選別機により未熟粒や着色粒を選別する

●イネ縞葉枯病対策の来年に向けた準備

様々な防除方法を組み合わせた「総合防除」

抵抗性品種の導入検討

「にじのきらめき」「ふくまる」「あさひの夢」「夢あおば」「月の光」等

薬剤防除の検討

防除効果の高い育苗箱施薬・適期の本田散布を組み合わせた体系防除（同系統の薬剤の連用は避ける）

秋～冬のヒメトビウンカ生息場所対策

ひこばえ（再生稲）のすき込みや畦畔除草



イネ縞葉枯病によって葉がこより状に垂れ下がった様子

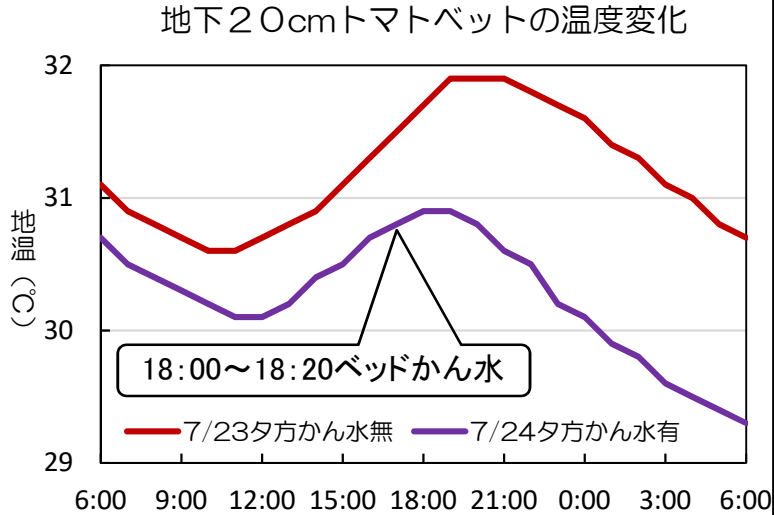
技術紹介 野菜の高温対策について

●抑制トマトの暑熱対策（地温上昇抑制技術）

抑制トマトは、定植時期が7月であるため生育初期に猛暑の時期を迎えます。トマトの初期生育を健全に生育させるためには、直射日光を避けるために、ハウスへの遮光ネットや塗布剤などで気温を下げます。

なお、トマトの根は33℃で生育を止めるため、地温も下げる必要があります。7月下旬から8月上旬はマルチが葉で覆われず、直射日光が当たって地温を押し上げます。

地温は地下20cmでは20:00~22:00頃最高温度に達します。このため、夕方20分程度かん水することで1.5~2.0℃下げることができます。かん水のタイミングの参考にしてください。



●パイプハウスでの冷却技術（屋根散水）

屋根散水とは、ハウスの屋根上に散水し、屋根面を冷却することでハウス内部の気温を下げる技術です。屋根面の冷却効果の90%は水が蒸発するときに奪う気化熱によるものです。

管内では、抑制トマトやイチゴの育苗ハウスで導入が検討されています。

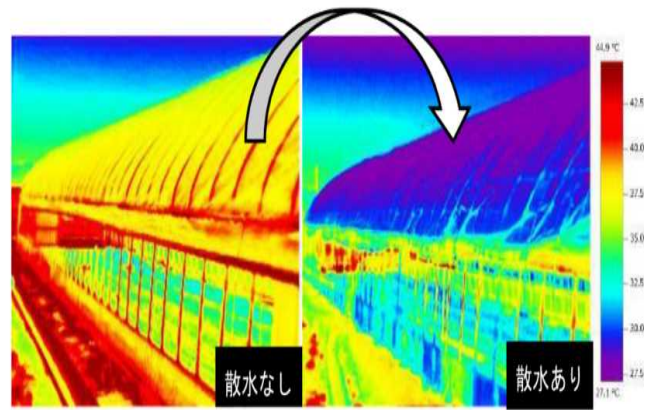
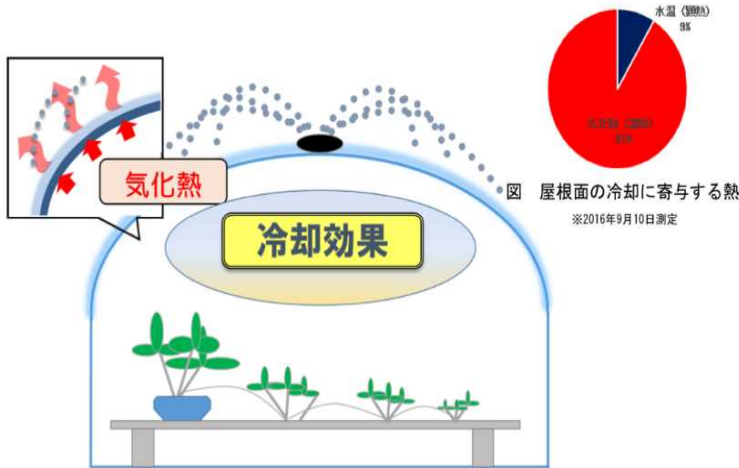


図 サーモグラフィで撮影した画像

※引用元：屋根散水による施設内冷却技術マニュアル（農研機構、群馬県農業技術センター、栃木県農業試験場）

●パイプハウスでの冷却技術（開度増加）

軒が低いハウスは、ビニペットの位置を変更し、サイドの換気幅を拡大する。



●鉄骨ハウスでの冷却技術（外気導入）

送風機で外気を排水溝に通して、冷気を取り込む。



注目制度 いばらきみどり認定 ～みどりの食料システム法の認定制度～

●国の目指す方向

みどりの食料システム法は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を目指す「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた法制度で令和4年に制定・施行されました。

みどり認定は、この法律に基づいて、環境負荷低減に向けた生産者や地域の取り組みを支援・促進するための認定制度です。

今後、取り組んでいきたい環境負荷低減事業活動を描くことが申請のポイントです。

●申請の流れ

申請者 → 県西農林事務所【筑西普及センター（受付）、振興・環境室（認定）】

●認定されるとこんな利点

- ・設備投資の際の税制優遇が受けられます。
- ・さまざまな国庫補助金の採択で優遇されます。
- ・日本政策金融公庫の無利子融資等が活用できます。
- ・農業近代化資金の利子補給が2年延長となります。



みどり認定パンフレットはこちら

※詳しくは、筑西普及センター(0296-24-9206)までお問い合わせください。

お知らせ 茨城県立農業大学校令和7年度入学生募集

茨城で農業するなら実践力を養う当校へ。専修学校で、大学への編入学の受験資格も得られます。

●募集人員

農学科 40名、畜産学科 10名、園芸学科 30名、研究科 10名

●受験資格

農学科、畜産学科、園芸学科／高校等を卒業した者又は令和7年3月に卒業若しくは修了見込みの者

研究科／農業大学校卒又は短大等卒以上若しくは卒業見込みの者

●願書受付・入学試験

試験区分	願書受付期間	試験日
推薦入試（各学科）	令和6年9月30日（月）～10月18日（金）	令和6年10月29日（火）
一般入試（各学科）前期	令和6年11月11日（月）～12月6日（金）	令和6年12月13日（金）
一般入試（各学科）後期	令和7年 1月 27日（月）～2月18日（火）	令和7年2月27日（木）
研究科 一般入試	令和6年11月11日（月）～12月6日（金）	令和6年12月13日（金）

●問い合わせ先 茨城県立農業大学校 TEL029-292-0010



← 【参考：茨城県立農業大学校HP入試のご案内】